

報告要旨

山縣宏之(立教大学経済学部)

「分極化」する地域の成長基盤と経路:ワシントン州シアトルとミシガン州デトロイトの比較研究」

Polarization of the Growth-led Industry and Growth Path in the US Regions: A Comparative Study of Seattle (CMSA) in the Washington State with Detroit (CMSA) in the Michigan State

本報告は、アメリカにおける深刻な政治的分極化の経済的背景を、労働・国際経済学、アメリカ経済論、地域経済論の手法を用いて解明しようとする試みである。具体的には、1990年以降、アメリカで異なる成長経路を辿った情報産業と知識集約型ビジネスサービス主導のリベラル地域(ワシントン州シアトル統合都市圏)と Trumpism にやや転じ、知識集約型ビジネスサービス主導になりきらず自動車産業などの「20 世紀型製造業」主導の性格が残るラストベルト地域(ミシガン州デトロイト統合都市圏)、両地域のそれぞれの経済的基盤と成長の方向性、その社会経済的变化はいかに異なるか、を比較する。

政治学がメインであるアメリカ政治的分極化の背景研究に、経済学(労働・国際経済学、アメリカ経済論、地域経済論・地理学視点)を導入し「二つの異なる地域」のそれぞれの特徴を対比して明らかにしようとする実証的研究の一部である。特に、両地域の成長主導産業の特徴、技術高度化とグローバル化の影響を踏まえ、地域の経済的基盤、成長の方向性、社会経済状態とその変化の相違を対比する。

報告は以下の内容から構成される。第一に、政治的分極化、国際経済学、労働経済学、経済地理学、アメリカ経済論などの内外の研究のレビューである。既往論点と実証研究の到達点を確認する。第二に、両地域の成長主導産業の特性に注目しつつ、産業構造高度化、就業構造分極化の進展を比較分析する。第三に、所得構成、人種構成、移民第一世代(国際化)比率など地域の社会経済状態とその変化方向を比較する。

以上を通じて、高技能を要求しグローバル化のメリットを受け、成長性があり高所得を可能とする情報産業や知識集約型ビジネスサービスを成長主導産業とし、産業構造高度化、就業構造分極化、人種構成多様化がかなり進化したリベラル地域シアトルと、知識集約型ビジネスサービスが成長主導産業になりきらず、あまり高技能を要求せずグローバル化のなかで苦境にあり、従業者数を減少させ、中程度所得を提供するにとどまる 20 世紀型製造業が地域の経済を成長させられないために、産業構造高度化、就業構造分極化、人種構成多様化がより劣後するミシガン州デトロイトという、二地域の対照的なあり方を浮き彫りにする。